

県立高校未来創造ビジョン意見交換会（北学区）における主な意見

テーマ①県立高校が取り組む教育の重点

全ての生徒の可能性を引き出す教育

- 小中学校では、支援が必要な生徒に対して手厚いサポートがある。県立高校でも、自立を促しつつ手厚いサポート体制があるという点も情報発信していただきたい。
- ビジョン本文資料編にある「希望する学歴」、「高校の教育に望むこと」の中学生の回答を見ると、興味・関心や進路志望に応じた選択について考えていることがわかる。
- 探究の取組については普通科系学科よりも産業系学科の方が実用的であり、その後の大学進学や就職にもつながっている。学びを社会や地域と結びつけることは大切であり、普通科系学科の探究にもその観点を意識して取り入れてはいかかが。
- 探究学習については、生徒の興味関心が多岐にわたるため、近隣の大学に加えて県内外の大学や地域企業とのつながりも必要である。
- 人は宝である。高校では、画一的ではなく、「とんがった」人が育つような教育を進めてほしい。
- 全日制では、これから文理融合の観点で思考力を高めることや、探究科のノウハウを普通科に浸透させていく。定時制と最上校も、多様な生徒の学びの場として、人数は少ないながらも必要性を感じている。
- 「すべての生徒の可能性を引き出す」として、柔軟性のある教育課程になっており、責任感や主体性を育めるように計画している。
- 教育委員会や学校には、生徒が間違いを恐れずに挑戦できる環境を整えてほしい。これからの高校教育には、社会や世界とつながりながら自分自身で未来を切り開く、大学などにより近い学びが必要だと思う。生徒の力だけでは足りない部分を大人の方々に支えてもらえる環境をお願いしたい。

地域を支える人づくり

- ビジョンの重点2つ目にある「産業人材の育成」について、産業関係に興味を持っている中学生は一定数いるものの、先行きが不透明で不安を持っている可能性がある。産業界も将来について安心感が中学生にも伝わるような情報発信をしていただけるとありがたい。
- 街中で活動している高校生の姿が見え、小中学生が目の当たりにして憧れることは大事。今地元で頑張っている方も産業高校の出身者が多く、産業高校と地元のつながりを改めて感じた。
- 授業で学んだことを地域で実践する環境が整っており、市に唯一の高校として小中学校とも体験学習などの交流を積極的に行っている。少人数だからこそ手厚く指導できる部分があり、ビジョンの「これからの県立高校を考える上での視点」にある「生徒数の減少をマイナスのみに捉えず」という点についても保護者から評価をいただいている。
- 小中学校の総合的な学習の時間で地域を学ぶ時間が増えている。高校でも探究の取組が始まってから増えているが、どの学科でも地域企業との関わりが増えてほしい。将来なりたいものを持っている子供が少ない印象があり、仕事に触れるきっかけや考える機会を増やしてはいかかが。普通科でも、いわゆる座学に留まらず、多様な学びに取組んでいただきたい。
- 卒業後の進路について、公立高校はしっかりしていると他の保護者とも話になった。
- 神室産業高校と地域企業の関わりは大きい。企業が求めている資質・能力を持つ人材を、学校で育てていると感じている。一方普通科では、コミュニケーション能力など、社会人としての資質・能力を育てる観点について考えることができると思う。
- 「地域を支える人づくり」として、新庄北・新庄南の取組の良さを取り入れた地域密着型の探究学習を推進していく。地域の大人と対等に話をする力を付けさせ、社会に参画できる姿勢を育てていく。

新しい時代への対応

- 普通科改革に関連して、地域と連携した活動をより活発にするために、コーディネーターの配置を推し進めていただきたい。
- 「新しい時代の対応」や「教育D Xの推進」として、デジタル技術を探究以外の教科でも活用することや教員側の研修にも取組みながら、生徒の自己実現のための武器になるようにしたい。
- 自分が将来に向けて身に付けたい力は、社会の課題に対して自分で考え、多様な人と協力しながら行動できる力である。変化が激しい社会においては国際的な視点で物事を考える力も必要であり、海外の文化や価値観を学ぶ授業や、学んだ外国語を実践的に活用するための交流の機会などがあると良い。

魅力ある学校づくり

- 出身地である金山では、県外生も受けて入れているが、生徒増には結び付いていない。一方、他県ではスキー留学で生徒が集まっているところもあり、その違いは何かと思うことがある。
- 県立高校に進学した生徒の活動が中学校の先生方に伝わっておらず、中学生にも伝わる機会がない。私立高校は担当の先生が中学校を訪れて生徒のことを伝えている。県立高校に進学した生徒からは本当に楽しく過ごしているという声も聴いているので、もっと中学校を訪れて生徒の取組みを伝えても良いのでは。
- 地域で活動している高校生の姿が生き活きとしていて、中学生とともに感銘を受けた。学校での学びを地域に広げて活動していることが魅力発信につながっており、中学生や市にも伝わってほしい。
- 中学生に向けて、ぜひ高校生から高校の魅力を発信していただきたい。
- 進学してくる生徒は、本校の取組を把握した上でやりたいことが明確になっており、情報が伝わっていると感じている。まだ不十分というお話もあったので、今後は特に保護者にも伝わるよう口コミやSNSなど方法を工夫した発信を、職員の負担も考慮しながら行いたい。
- 自分が高校に入ったきっかけは、2人の兄がすごく楽しそうに通学していた様子を見ていたことだった。専門分野の学習は難しいこともあるが、検定や授業など先生方が親身になって教えてくれて、やっていて良かったと思うことが多い。他の学校にはない魅力があると感じている。
- ビジョンからは、県立高校の現状に基づいた魅力発信の必要性が伺えた。県立高校も、校長裁量でできることは限られているが、魅力を具体化して発信してほしい。
- 私立高校の魅力やその発信手法も分析し、県立高校も一層魅力発信に努めてほしい。
- 高校の学習について、より一層の情報発信をお願いしたい。探究的な学びを中学生が知る機会や、中高で教員も含めて連携する機会を増やしたい。高校の学びと大学や企業のつながりが中学生にはなかなかわからないので、学校説明会などで説明して頂ければありがたい。また、育てたい資質・能力も中高で連携を図りながら高めていければと考えている。
- 施設設備は魅力の大きな要素になっており、私立高校のスクールバスは通学や部活動の移動で影響があると感じる。新庄志誠館の新校舎には期待している。
- 最上総合支庁で作成した最上地区の良さが記載されている資料が、管内の全高校生に配布されているとのことである。学校の魅力のみならず最上の魅力も併せて伝えていただきたい。
- 神室産業高校の生徒たちが「みちのくひめゆり」を復活させ、8年がかりで化粧品の製品化にもつながった。このような挑戦を産業系高校の魅力の1つとして伝えたい。
- 学校の施設、設備については新しいに越したことはないと思う。
- 私立高校は見せ方が上手で、PRの部分で公立高校と差がついてしまっている。節度は守りつつも中学生や保護者の興味を引く内容や、管内の高校同士でオープンスクールの日程を調整

するなど、工夫することもある必要である。

- 学校施設の印象は大きく、生徒が学校選びをする際の1つの指針になりうる。
- 役割分担として、専門的な学びができる新庄神室産業高校と、幅広く学びを深める新庄志誠館高校がある。今日のお話を受けてさらに具体的に、幅広い層に魅力が伝わるようにしたい。教員が、本業である授業の傍らで広報活動を行うことには限界があるため、地域の方と連携して、また県立2校の魅力を一緒に伝える体制ができたらと思っている。

テーマ②県立高校の在り方に関する基本的な方向性

入学定員の設定、学級数の取扱い

- 公立と私立への進学率は、ほぼ3：7になっている。私立には入りやすい印象ができている上、山形市内に進学したい意識があるようだ。中学校と教育委員会で連携を取って対応を考えたい。
- 小規模化した場合、生徒と教員の割合によってきめ細かな対応は難しい。市の小中学校の統合についてのアンケートでも、1学年の人数が少ない状況で人間関係に不安を抱く子供の意見があった。高校にはある程度のスケールメリットで切磋琢磨する環境が必要である。他県と比べても、山形県の高校は規模が小さい。
- 大学進学を目指す学校として、教員数や開設科目の確保という観点からある程度の規模は大切だ。一方で小規模校にも、不登校経験のある生徒が再出発し、将来的な社会的自立につながる力を育む役割がある。

課程・学科の配置、学校・学科の特色化に向けた方向性

- 産業高校は生徒の様子が情報として入ってくるが、普通科は今ひとつである。探究の取組も産業高校ほどの具体性に欠けるなど、魅力として伝わっていない。例えば県外では県立から市立にして職業に特化させたコースを作り魅力を向上させた例もあるが、そのような思い切った改革に取り組むのかどうかが見えてこない。尻すぼみの改革にならないか懸念がある。
- 小規模校のメリットとデメリットは、小中学校も高校も共通である。少人数できめ細かい指導ができる一方、ある程度の規模がないと多様な学びはできないので高校ではスケールメリットも必要である。
- 北村山高校を訪問して、小中学校で個性や強みを発揮する場面が限られた生徒がいきいきと活動しており、また不登校傾向であった子も支援をいただきながら通学できている様子を見て、このような小規模校はできるだけ存続してほしいと感じた。
- 県外生受入れについて、成功した県外の一例に続く事例がほぼ見られない。自治体の負担もあって今後の運営に不安も感じている。例えば普通系学科でも県内他学区からの受入れを柔軟に検討してはいかかがか。
- 真室川校に訪問すると、小中学校の頃から飛躍的な成長を感じる。町外から来た生徒も人間関係をリセットする機会になっており、小規模という環境がメリットだと感じる。ビジョンの視点にある「多様性の確保」には魅力と可能性を感じており、今後も小規模校の良さを発信したい。
- 県外生にも、スキーに引き続き力を入れ、さらに大学進学希望に向けたサポートも計画しているところである。
- 不登校傾向生徒の居場所として、小規模校は欠かせないと感じている。生徒一丸となってボランティアに取り組んでいる様子にも感銘を受けた。

県立高校の配置に関する各地区の方向性

- 高等学校が少ない北村山地区から一定数私立高校に進学する状況は仕方がない面もある。特

に普通科に進学したい生徒は、東桜学館高校以外は山形地区か私立高校が主な選択肢になるだろう。

- 最上地区の場合、小規模校の存在価値が大きい面もある。小中学校で個性や強みを発揮する場面が限られた生徒が、高校の先生方のおかげでいきいきと活動でき、就労にもつながっている。これも魅力の1つであり、学校を規模だけで論じるのはもったいないと感じる。
- 最上地区においては小規模校の良さに焦点が当たるのは理解できるが、個人的には規模が大事だと考えている。人数が少ないと行事や部活動に制限がかかることもあり、高校は規模が大きいことが魅力の1つとなりえる。
- 金山町の移住やスキーなどの取組は、小規模校の成功事例だと思っている。しかし人口減少が加速する中で、県として学校削減の検討はしなければならないことだと理解している。学校規模や予算の観点から、地区には公立と私立1校ずつでも良いとも思っている。

テーマ③その他

ビジョン全体について

- 色々な人口減への対応の中で、人の偏りが課題の一つとなっている。市内の中心部と周辺部での人口差や、公私に進学する生徒の比率など、偏った状態から課題にならない範囲に収めて解消するような手立てを具体的にする必要があるのではないかと。
- ビジョン資料編で「高校を選ぶときに重視すること」に興味深く拝見した。近場を希望する高校生が一定数おり、進学や就職の有利さも挙げているので、中学生には夢をしっかりと持たせ、その実現の場として高校の在り方を考えてほしいという思いがある。

高校入選について

- 入選制度について、さらに公立高校の中で第1希望校と第2希望校を設定できるようにはできないか。国公立大学への進学は公立高校の強みであり、第2希望も公立高校、私立の希望はそれ以下と考えているような生徒にとっては、公立高校に進学する機会が増えることで将来の希望実現につながられる可能性が高まるのではないかと。
- 入選改革で受検機会が増えたことは、生徒の進学の選択肢が広がるので評価できる。

交通事情について

- 駅から遠く、交通アクセスに懸念がある。冬期はバスを増便していただいているが、本数や時間帯が限られており、私立高校のバスと比較するとマイナスに感じられてしまう。
- 充実して満足しているが、強いていえば、駅から学校までが少し遠い。
- 県立高校には魅力があるが、通学手段の不便さを理由に私立高校が選ばれている面もある。例えば県立高校の複数校を対象としたスクールバスを運行するなど、交通の便を良くする措置があれば選択肢に入る県立高校も増えてくるのではないかと。
- 最上地区は広いが公共交通機関が少ない。県立高校は民間を圧迫しないようにスクールバスの運行は難しいと思うが、何か働きかけも必要ではないかと。

その他

- 肌感覚として、生徒も保護者も楽な（いわゆる受験勉強をしなくて済む）方へ流れている傾向がある。
- 校長の任期が短い。5～6年程度あれば中長期的な視点でできることが増えると感じる。
- いわゆる授業料無償化で、公立か私立かという軸だけではなく、私立高校同士でも選択される立場になっている。高校の学びや特色に加えて、子供たちがその先を見据えて選ぶ時代になったと感じている。